

令和元年度池田市立図書館の運営に関する評価

令和2年12月

1 はじめに

池田市立図書館では、平成20年の図書館法改正と「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年文科省告示）により、図書館評価の実施が努力義務になったことを踏まえ、令和元年度事業を対象に図書館評価を行い、その結果を通して、今後の図書館運営の改善等につなげ、より良い図書館サービスをめざしてまいります。

2 評価の方法

（1）自己評価

- ・評価項目は、基本的な利用に関する項目と「池田市立図書館運営基準」に基づく施策に関する項目で設定し、自己評価を行います。
- ・数値評価は目標値を対前年度比増に設定します。

（2）外部評価

図書館協議会において、当該年度の活動実績と自己評価について報告するとともに協議会委員の意見をいただき、評価を実施します。

3 評価の基準

- A 計画どおり実施し、一定の成果があった。
- B 概ね計画どおりだが、課題が残った。
- C 計画に遅延があるなど不十分な点や課題が多かった。

（1）基本的な利用に関する評価について

（年度末比較）

指標	平成30年度	令和元年度	達成状況	図書館評価	図書館協議会評価
年間来館者数	380,979 人	564,219 人	183,240 人増	A	A
年間貸出人数※	221,450 人	278,266 人	56,816 人増	A	A
年間貸出冊数※	619,005 冊	730,148 冊	111,143 冊増	A	A
有効登録者数※	16,437 人	20,007 人	3,570 人増	A	A

※個人利用者数

●自己評価説明

前年度と比較したところ、本館の1日あたりの平均利用数は、来館者数が約2.5倍、貸出人数、貸出冊数が約1.5倍の増加となった。駅前への移転に伴い、立地が便利になったことに加え、毎週火曜日と第3月曜日、第1金曜日の休館日が月1回の第3水曜日のみになり、開館時間も平日と土曜日を20時まで延長したことが主な要因と考えられる。令和2年3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初旬より予約本の受け取りのみの利用、中旬からは臨時休館となったが、年間の利用数（来館者数、貸出人数・冊数）は過去最高となった。

●図書館協議会の意見

- ・駅前へ移転し、利便性が良くなった効果が数字に表れている。
- ・開館日、開館時間拡大し、市民にとってとても便利になっている。

●結果の分析及び改善策

- ・駅前に移転し、便利になったことで、初めて図書館を利用する市民が増加した。
- ・新規登録者が、継続して図書館を利用したいと思えるサービスを工夫して提供する。
- ・駅前の好立地を活かし、まだ図書館を利用したことがない市民が図書館を利用するきっかけとなるイベント等を駅前の店舗と連携して実施し、駅前のにぎわい創出につなげる。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じて開館する。

(2) 「池田市立図書館運営基準」に基づく施策評価

① 多様な資料・情報の収集、整理、保存に努め、市民の読書活動を推進します。

目 標	「池田市立図書館収集方針」に基づいた資料の収集			
具体的取組み	選書委員会の実施による適正な資料の収集、保存を行う			
取組み結果	・蔵書数 400,106 冊（前年 397,827 冊） ・蔵書数は、前年度から約 2 千冊増加し、市民 1 人あたりの蔵書数は、3.9 冊（前年 3.8 冊）となった。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	郷土資料の充実			
具体的取組み	本館、石橋プラザ、それぞれの特性を活かした郷土資料の充実、及び整理に努める			
取組み結果	・郷土資料冊数 10,577 冊（前年 10,313 冊） ・本館移転により、郷土資料コーナーを入口近くに配置し、書架表示や見出し等を追加することにより、初めての来館者にも資料が探しやすいよう工夫した。 ・カウンター近くに書架を設置したことにより、柔軟なレファレンス対応が可能になった。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	行政資料の充実			
具体的取組み	庁内の各部署で発行された資料を積極的に収集し、保存する			
取組み結果	・講座開催と連携した資料の収集に努めた。 ・郷土資料コーナーを入口付近に配置したことにより、行政資料も市民の目に留まりやすく、利用促進につながった。 ・行政資料は、一枚ものやパンフレット類が多いことから、ファイルで綴じたり表示を分かりやすくするなど、受入れに工夫が必要となり、利用者が探しやすく閲覧しやすい受入れ方法が今後の課題である。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・本館移転により、必要な資料が分かりやすく配置されている。
- ・医療情報コーナーや郷土資料が入口にあるので、すぐに目的のコーナーを見つけることが出来て良い。

◆結果の分析及び改善策

- ・本館の利用数が増加したことにより、さらに資料の充実が求められる。
- ・本館では、配置を見直し、蔵書数の増加に努める。
- ・貸出中になっている資料が多いため、新着資料のメール配信や、新着案内リストの配布など、情報の発信に努める。
- ・行政資料は、資料の種類や重要度に応じて保存年限を定め、増減に適応した加除式ファイルの使用により、管理しやすいよう工夫する。

② 市民が必要とする資料や情報を提供することにより、「地域の情報拠点」として課題解決に役立つ図書館をめざします。

※●は令和元年度重点目標

目 標	レファレンスサービスの充実				
具体的取組み	・レファレンス用図書・資料の充実 ・レファレンス担当職員の能力向上				
取組み結果	・各種データベース（ジャパンナレッジ・日経テレコン・ポプラディアネット）を追加導入し、書籍や雑誌では充当できない資料の提供に努めた。 ・レファレンス件数 272 件（前年 581 件） 本館が駅前に移転開館したことにより、来館者数や貸出冊数が大幅に増加したため、利用者への応対が新規登録や簡単な蔵書検索が中心になり、レファレンス業務としての件数に挙げられなかったことから、処理件数が減少した。 ・レファレンス関連の職員研修には 7 名（前年 6 名）が参加し、能力向上に努めた。				
評 価	図書館	B	図書館協議会	B	

目 標	子育て支援サービスの充実			
具体的取組み	●子育て支援コーナーを設置 関連書や市内の子育て情報をまとめて提供する ●「子育てのちょっといい話」の開催			
取組み結果	・本館の移転に伴い、くつろいで親子が絵本を楽しむことができる絨毯引きの広々としたキッズコーナーを整備し、そのそばには、子育て関連の資料から市の関係各課のパンフレットに至るまでまとめて配架した子育て支援コーナーを設置することで、子どもを連れた保護者が館内を歩き回らなくても必要な資料・情報が取得できるようになった。 ・昨年度に引き続き実施した「子育てのちょっといい話」では、乳幼児向けのおはなし会などの後に、保健師や栄養士等に子育てに役立つお話や質問に答えてもらうなど、保護者の身近な疑問を解決に導けるよう情報提供に努めた。 本館 6 回、プラザ 4 回 合計 10 回（前年 本館 4 回、プラザ 5 回 合計 9 回） ・昨年度実施した市の子育て世代包括支援センター「にじいろ」担当者による子育て相談を、今年度は本館でも実施した。（本館 2 回、プラザ 8 回）			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	課題解決サービスの充実			
具体的取組み	●各種データベースの活用 ●「暮らしに役立つ情報講座」の開催 ・健康講座などの実施			
取組み結果	・既に導入済のデータベース（聞蔵Ⅱ、官報情報サービス）に加え、日経テレコン、ジャパンナレッジ、ポプラディア、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの提供を開始し、各データベースの使い方講座を職員や利用者向けに実施し、利用促進を図った。 ・市民の日常生活における課題解決に向けて「暮らしに役立つ情報講座」を開催した。（2 回 41 人）（前年 5 回 109 人） 本館移転による利用者数増加により、8 月末まではカウンター業務が中心となり、1 回目の開催が 9 月になったことと、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため 2 月以降の講座が中止になったことから、開催回数が減少した。 ・本館移転に伴い、医療情報コーナー及び認知症コーナーを入口付近に設置したことで、利用者が資料を手に取りやすくなった。 また、健康講座として、2 月に認知症に関する講座を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となったことから、来年度実施に向けて再度調整を予定している。			
評 価	図書館	B	図書館協議会	B

目 標	ホームページやSNSの活用			
具体的取組み	図書館から、行事やおすすめ資料などの情報を積極的に発信する			
取組み結果	・インターネット予約件数 89,449 件（前年 85,532 件） 前年度と比較すると、3,917 件増加した。カウンター予約を含めた予約全件数は 134,133 件となり、前年度より 4,395 件増加した。 ・行事開催時にツイッターを活用して直前にも案内するなど、頻繁に情報発信をするよう努めた。 ・ホームページで行事案内や行事報告を行った。 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のための図書館臨時休館のお知らせなど、日々変化する状況に応じた対策をホームページやツイッターで案内し、利用者への周知に努めた。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	広域利用・相互貸借の促進			
具体的取組み	・7市3町広域利用及び川西市との相互利用の促進 ・相互貸借の活用			
取組み結果	・広域利用は平成29年7月より3市2町から7市3町に拡大実施。 登録者 1,113 人（前年 877 人） 利用数 池田市→他市町住民 3,399 人 8,580 冊（前年 1,554 人 4,027 冊） 他市町→池田市民 11,070 人 36,002 冊（前年 10,994 人 35,526 冊） 本館が駅前に移転したことにより、他市町住民からの貸出しが前年度と比較して約2倍の増加となった。 ・川西市との相互利用 登録者 753 人（前年 325 人） 利用数 池田市→川西市民 2,353 人、5,354 冊（前年 964 人、2,155 冊） 川西市→池田市民 4,290 人、11,793 冊（前年 5,814 人、16,532 冊） 池田市民の川西市利用は減少したが、本館の駅前移転により川西市民の池田市利用は約2.5倍に増加した。 ・相互貸借数 借受 2,852 冊（前年 3,045 冊） 貸出 814 冊（前年 649 冊） 他館からの借受は193件の減少となったが、貸出は165件増加した。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・レファレンスに関しては、職員研修に積極的に参加して能力向上を図っていることが伺える。今後、研修の成果を業務で発揮してもらいたい。
- ・レファレンスサービスがどのようなものか、もっと市民へPRするべきである。
- ・子育て支援サービスについては、活発な活動が実施できている。
- ・課題解決サービスについては、データベースの利用促進に向けて更にPRをしてもらいたい。

- ・ホームページやツイッターでの新型コロナウイルスに関する図書館の対策が分かりやすかった。
- ・今後は特にホームページでの情報発信に取り組んでもらいたい。
- ・広域・相互利用については、本館が駅前に移転したことによる利用増が数字に表れている。

◆結果の分析及び改善策

- ・レファレンスサービスについては、図書館ホームページで目に留まりやすいよう工夫する。
- ・子育て支援サービスについては、今後も関係機関と連携してサービス拡大をめざす。
- ・課題解決サービスについては、データベースの利用促進を図るため、使い方講座を実施する。
- ・多様化している市民のニーズを把握し、日常生活に役立つ情報講座を開催する。

③ 子どもたちの豊かな「学び」を応援し、学校、家庭、地域等と連携して子ども読書活動の推進を図ります。

※●は令和元年度重点目標

目 標	おはなし会等の実施			
具体的取組み	子どもが小さい頃から読書に親しめる環境づくりの一環として、おはなし会等を開催する			
取組み結果	・おはなし会実施回数 69 回 1,592 人(前年 79 回 1,729 人) 乳幼児から小学生を対象に全館で定期的におはなし会を開催し、子どもが読書に親しめる環境づくりに努めた。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2月下旬以降の行事がすべて中止となり、年間の参加者数は前年より減少しているが、行事1回あたりの参加者数は、平均約23人(前年 約22人)となり、ほぼ同数となった。 前年度同様、小学生以上の参加者が少なかったが、今年度は、「小学生のおはなしアラカルト」として、少人数でもしっかりと素話などが聞けるように、対象を小学生のみにしぼったおはなし会を開催し、小学生以上が楽しめる内容で実施した結果、参加者から好評を得た。(2回 35人)			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	調べ方案内の作成			
具体的取組み	子どもたちが調べたい内容を容易に取得できるよう案内を作成する。			
取組み結果	・調べ方案内④「ユニバーサルデザインについて調べる」を作成。調べ学習支援として全館内で配布するほか学校図書館にも配布し、ホームページに掲載した。 ・本館の貸出・返却業務量が大幅に増加したことから、作成に要する時間が取れない状態である。作成部数の増加に向け、担当人員の確保等が課題である。			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	ヤングアダルトサービスの充実			
具体的取組み	● 10's コーナーの活性化 ・ 10's コーナー通信の発行 ・ブックリストの配布			
取組み結果	・本館の駅前移転により、コーナーの拡大を図った。 ・表紙を面にした配架を多くし、利用者が手に取りやすいよう工夫した。 ・ホームページをリニューアルし、中高生が興味を持てるようなページになるよう工夫して作成しているが、カウンター業務との兼務となるため、じっくりホームページ作成に携われる担当人員の確保が課題である。 ・新図書館オープン記念講演会として、10代に人気の作家、令丈ヒロ子氏の講演会を実施した。(1回 74人) ・石橋プラザでは、市内高校と連携した展示及びブックリストの配布を実施した。			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	学校図書館との連携促進			
具体的取組み	学校司書と連携し、調べ学習用資料などを提供する			
取組み結果	・FAXを使用して学校司書からのレファレンスや調べ学習用の資料収集を行った。また、授業で使用する資料や生徒からの予約本は庁内連絡便で配送するなど、迅速な対応に努めた。 ・学校図書館教育研修会を図書館で開催し、学校司書のニーズの把握及び資料提供に役立てている。 ・図書館の除籍資料の中から活用できる資料を学校司書に選択してもらい、学校図書館での有効活用を図った。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	団体貸出しの拡充			
具体的取組み	学校や文庫、地域コミュニティなどの団体貸出しを実施			
取組み結果	・団体貸出冊数 23 団体 36,573 冊（前年 26 団体 57,397 冊） ・今年度は本館移転のため学校配本や文庫等の入替えの実施が 9 月以降となったことから、貸出冊数は減少した。 ・行事で使用する大型絵本の需要が増加しており、蔵書の充実に努めた。（大型絵本冊数 151 冊 前年 141 冊 ）			
評 価	図書館	B	図書館協議会	B

目 標	見学や職場体験の受入れ			
具体的取組み	小学校の見学や中学校の体験学習の受入れを実施			
取組み結果	・図書館見学 1,158 人（前年 754 人） 主に市内小学校 3 年生の施設見学を受け入れている。前年度は依頼校数が少なかったが、今年度は、新本館への見学依頼が増加した。 ・職場体験学習 18 人（前年 17 人） 主に市内中学校 2 年生の職場体験を受け入れている。有意義な体験となるよう対応可能な受入れ人数を 2 名までと限定して実施しており、今後も受入れ体制を整えて実施する。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・おはなし会については、とても活発で、子どもの読書活動推進につながっている。
- ・調べ方案内の作成については、作成数は少ないが、時間がない中でも工夫して作成していることから、協議会の評価はAとする。
- ・調べ方案内の作成増加に向けて人員の強化を図ってほしい。
- ・ヤングアダルトサービスについては、コーナーが拡大し、講演会も盛況であったことから、協議会の評価はAとする。
- ・学校図書館との連携が活発に実施できており、今後も継続して実施してほしい。
- ・団体貸出しは、本館が移転したため、物理的に貸出冊数が減少したのは仕方がない。今後は貸出冊数が増加するよう、取り組んでもらいたい。また、大型絵本の充実など、ニーズにあった蔵書の充実に努めてほしい。
- ・図書館見学や職場体験については、引き続き実施してほしい。

◆結果の分析及び改善策

- ・子どもの読書活動推進に関する項目については、概ね活発に実施できているが、調べ方案内やホームページの作成など、特に司書のスキルや時間を要する項目に関して課題がある。
- ・担当者が必要な事業に取り組めるよう、業務の効率化を図る。

④ 図書館ボランティアとの協力を深めるとともに、市民同士の交流の機会・場を提供し、市民がわくわくしながら集い、出会う、楽しい図書館をめざします。

※●は令和元年度重点目標

目 標	グループ学習や発表の場の提供			
具体的取組み	市民グループ等の学習、発表の機会、場を提供する			
取組み結果	・「子どもの考える力を育てるワークショップ」(1回 23人)、「自分史の書き方講座」(3回 18人)、「大人の朗読会」(1回 65人)、「大人のための音読会」(8回 238人)、「プラザミニ寄席」(3回 28人)、「たのしい人形劇」(1回 39人) ・参加者主体の行事を行うことで、図書館で市民が交流する機会を提供した。また、自分史の講座では、講座終了後に自発的な自分史サークルも形成され、市民同士が繋がるきっかけとなった。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	ボランティアとの協働事業の実施			
具体的取組み	図書館ボランティアとの連携をさらに強化する			
取組み結果	・図書館まつり 参加ボランティア数 70人(前年 106人) ・年間ボランティア参加人数 1,991人(前年 1,919人) ・おはなし会、手話講座、点字講座等、多数の行事を連携して開催 本館の移転により本格的な活動開始が6月からとなったが、旧本館からのボランティア活動は継続して実施できた。図書館まつりで実施していたリサイクルブックフェアについては、各館に専用コーナーを設けて毎月リサイクルする形式に変更した。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	他機関等と連携した各種行事の開催			
具体的取組み	●様々な年齢及び対象に応じた行事を他機関等と連携して開催し、図書館の活性化に努めるとともに、市民同士が交流できる機会を提供する			
取組み結果	・本館が商業施設内に移転したことから、併設する店舗等と連携し、多数の行事を開催した。 (新規実施) 「歯医者さんの子育て応援講座」(3回、47人)「スマートフォン体験講座」(2回、38人)、「英語で絵本を読もう」(2回、62人)、「おやこアートタイム」(4回、73人)、「こどもプラモデル体験会」(2回、40人)、「図書館でふれあいベビーヨガ」(1回 16人)			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	図書館協議会の充実			
具体的取組み	多様化する図書館へのニーズに対応するため、図書館協議会の充実に努め、利用者サービスの向上を図る			
取組み結果	・2回開催。平成30年度図書館運営評価外部評価を実施し、図書館協議会による評価を決定した。 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため3月は中止となった。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・グループ学習や発表の場の提供については、積極的に取り組んでいる様子が伺える。
- ・ボランティアとの連携については、本館移転後も継続して実施できている。
- ・各種行事の開催については、移転後に新規の事業を多数展開している。近隣の店舗と連携して、駅前のにぎわい創出につなげてもらいたい。

◆結果の分析及び改善策

- ・ボランティアとの連携や図書館での市民交流の項目は本館の駅前移転の効果で、より活発に事業が展開できている。
- ・さらに、近隣店舗や他機関等と連携して、図書館が主体となって、市民が交流する機会の提供に努める。

⑤ 高齢・障がいなどの理由により図書館利用が困難な市民へのサービス拡充や情報提供の格差解消に努め、誰にでもやさしい図書館をめざします。

目 標	障がい者支援資料の充実			
具体的取組み	大活字本やデージー図書等の充実を図る			
取組み結果	・障がい者支援資料点数 4,377 点（前年 4,486 点） 医療分野等内容が時代に合わなくなった点字図書や、傷みが激しい録音テープ等提供不可能な資料を除籍して整理した結果、全体では 109 点減少したが、本館移転に伴い、入口付近にそれぞれの障がい者支援資料を紹介する特設コーナーを設け、利用者が手に取りやすいよう工夫して配架した。 ・蔵書にないものは、サピエ図書館のネットワークを活用し、デージー図書 451 点を利用者に提供した。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	多言語サービスの充実			
具体的取組み	・多言語おはなし会 ・多言語利用案内の更新			
取組み結果	・多言語おはなし会は、3 月に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、来年度開催の方向で国際交流センターと調整した。 ・日本語版の利用案内改訂に伴い多言語利用案内を改訂し、本館、石橋プラザ、国際交流センター等で配布した。			
評 価	図書館	B	図書館協議会	B

目 標	図書館への来館が困難な市民へのサービス充実			
具体的取組み	・ 宅配サービスの拡充 ・ 移動図書館の巡回			
取組み結果	・ 宅配サービス貸出冊数 201 冊（前年 231 冊） ・ 移動図書館利用数 2,045 人 8,002 冊（前年 2,089 人 8,619 冊） 前年度は、本館の閉館により、予約本の受取り場所を移動図書館のステーションに変更する利用者が増加したが、本館の移転開館後は、本館へ利用者が戻ったことにより、移動図書館の利用が減少した。一方、本館の移転に伴い移動図書館のステーションを見直したところ、旧本館に近い新設の「アルビス五月丘」では、年間 388 人、1,502 冊の利用があり、廃止した呉服小学校の 115 人、919 冊を大幅に上回り、年間最多利用ステーションとなった。			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・ 障がい者サービスについては、サービスの充実に努めていることが伺える。
- ・ 多言語サービスについては、おはなし会の中止は残念だったが、次の開催に向けて調整し、今後も継続してもらいたい。
- ・ 移動図書館の利用数が低下している要因としては、本館が駅前に移転し、利便性が良くなったことで、移動図書館より本館を利用する市民が増加したことが挙げられるため、協議会の評価はAとする。

◆結果の分析及び改善策

- ・ 障がい者支援資料については、蔵書は減少しているが、サピエ図書館を活用したサービスの提供を促進し、利用者のニーズにあった資料が迅速に提供できている。
- ・ 障がい者支援資料のPRに向けて、図書館ホームページでの案内をさらに工夫する。
- ・ 移動図書館については、本館に来館しやすくなったことから利用が減少傾向にあるが、高齢や障がいがあり、来館困難な利用者へのサービス提供を引き続き実施する必要がある。